

第13 教 育

第3期群馬県教育振興基本計画（2019～2023年度）に掲げた基本目標である「たくましく生きる力をはぐくむ～自らの可能性を高め、互いに認め合い、共に支え合う～」の達成に向け、教育委員会では次の8つの基本施策を展開して教育行政を推進した。

8つの基本施策

1 時代を切り拓く力の育成

社会的・職業的自立に必要な能力を育成する。
文化芸術教育と郷土に誇りをもてる学びを推進する。
国際的視点に立ち、自らの考えを発信できる力を育成する。

2 確かな学力の育成

基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに、学びに向かう力を育む。
探究的・発展的な学習により社会へ参画する力を育成する。

3 豊かな人間性の育成

自他を大切にする心や自己肯定感を育むとともに、規範意識を高める。
いじめ防止に努め、良好な人間関係を築く力を育成する。

4 健やかな体の育成

児童生徒の体力向上を図る。
児童生徒の心身の健康を保持増進する。

5 信頼される学校づくり

教員の資質を向上し、互いに高め合う職場づくりを推進する。
特別の支援を必要とする児童生徒の教育を充実する。
特色ある学校づくりを推進する。

6 安全・安心な学びの場づくりと防災・危機対応能力の育成

安全・安心な教育環境を確保する。
災害等から身を守る力の育成と児童生徒の安全の確保を地域ぐるみで推進する。

7 家庭の教育力向上と学校・地域の連携・協働の推進

幼児期の教育の充実を図る。
家庭教育支援を推進する。
学校と地域の連携・協働を推進する。

8 生涯学習社会の構築

生涯にわたる多様な学びを推進する。
社会教育を推進する。

1 教育総務費

(1)教育委員会運営 決算額 12,284千円

・群馬県教育委員会会議の開催

定例会を12回開催して、教育行政方針の決定、教育委員会規則の制定・改廃等60件の議案を審議し、教育行政の円滑化に努めた。

(2)教育広報・広聴 決算額 2,395千円

① 広報紙の発行

保護者、教職員、市町村教育委員会及び教育関係者を対象に教育広報紙「教育ぐんま」を配布し、県教育委員会の行政施策について周知し、理解と協力を得ることに努めた。

回数	発行部数(年)	配 布 先	事 業 費
3回	386,050部	小学4・5・6年生、中学1・2・3年生の全世帯、幼稚園・小学校・中学校・高等学校等、市町村教育委員会、教育関係者 ※1学期号は第3期県教育振興基本計画を幅広く周知するため、小学校1・2・3年生にも配布	2,356 千円

② 情報発信・県民等からの意見聴取

毎月定例教育委員会会議終了後に記者会見を開催し、報道機関に対する情報提供を行った。また、メールや手紙で寄せられる県民等からの意見の聴取に努めた。

(3)総務調整費 決算額 22,387千円

事務局内予算の適正、効率的な執行を図るため、年度途中で機動的な対応が必要となった経費等に支出した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
文書館：非常用放送設備交換修繕工事	経年劣化により故障した非常用放送設備を交換する工事を実施した。	1,012 千円
ぐんま天文台：遊歩道法面松食い虫被害予防対策	松食い虫被害による倒木等を未然に防ぐため、予防対策として、遊歩道法面の立木に樹幹注入剤を施した。	770
そ の 他	68事業	20,605
計		22,387

(4)社会参加費 決算額 1,173千円

教職員が地域社会に積極的に参加することにより、県民の声を聞き県政に反映するとともに、県政の方針や事業等について説明し県民の理解と協力を求めるため、各種団体との会合に伴う会費等の支出を行った。

所 属	数	事 業 費
教育委員会 10課 14所 84校		1,173 千円

(5)調査統計 決算額 76千円

各種施策の基礎資料とするため、教育に関する基本的事項の調査・統計事業を実施した。

区 分	事 業 内 容
教育調査・統計	学校教員統計調査（文部科学省調査）

(6) 高等学校等奨学金貸与事業補助 決算額 10,678千円

群馬県教育文化事業団が行う高等学校等奨学金（旧日本育英会から平成17年度に都道府県に移管）の運営費を全額補助した。

区 分	事 業 費
奨学金事業運営費補助金	10,678 千円

(7) 就学支援金 決算額 3,838,648千円

高等学校等における教育に係る経済的負担を軽減し、教育の機会均等を図るため、中・低所得世帯の高校生等に対し、その授業料に充てるための就学支援金を支給した。

区 分	事 業 費	支 給 人 数
就 学 支 援 金	3,838,648 千円	35,132 人

(8) 学び直しへの支援金 決算額 1,497千円

以前に高等学校等を退学して公立高等学校等へ再入学したが、就学支援金の支給月数等を超過したことにより、就学支援金を受けられない高校生等に対し、学び直しへの支援金を支給した。（要件・目的は就学支援金と同じ）

区 分	事 業 費	支 給 人 数
学び直しへの支援金	1,497 千円	174 人

(9) 奨学のための給付金 決算額 418,452千円

全ての意志ある高校生等が安心して教育を受けられるよう、授業料以外の教育費負担を軽減するため、高校生等のいる低所得世帯に対し、奨学のための給付金を給付した。

区 分	事 業 費	給 付 人 数
奨学のための給付金	418,452 千円	4,482 人

(10) 教職員人事管理 決算額 11,338千円

学校職員の人事管理を適正に行い、教職員組織と教育力の充実を図った。

① 人事異動

区 分		人 員	備 考
採 用	市 町 村 立 学 校	666 人	
	県 立 学 校	153	
異 動	市 町 村 立 学 校	転任	637
		転補	782
	県 立 学 校	529	
退 職	市 町 村 立 学 校	658	(ほかに中途退職者20人)
	県 立 学 校	165	(ほかに中途退職者14人)

② 小学校少人数学習支援（通称：さくらプラン）

幼児期からの基礎教育の充実の一環として、小学校6年間を見通し、第1・2学年は1クラス30人以下、第3・4学年は35人以下、第5・6学年は40人以下とし、スム

ーズな学年移行を図る「ぐんま方式」の学級編制を行うことにより、学校生活への適応の円滑化や学習指導の支援に努めた。この結果、教師が児童と接する時間が多くなり、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな学習指導や生活指導が実施できた。また、児童の基本的な生活習慣や学習習慣が身に付くとともに、個人差に応じた指導の充実を図ることができた。

学年等	配置校数	配置人数
第1学年	74校	74人
第2学年	124	124
第3学年	54	54
第4学年	56	56
計	308	308

③ 中学校第1学年生活充実支援（通称：わかばプラン）

第1学年を1クラス35人以下の学級編制とし、すべての教科を少人数で指導するとともに、中学校生活へ適応するための支援体制の充実を努めた。この結果、不登校や問題行動への指導が充実するとともに、生徒の授業中の発言や活躍場面が増加したり、学校行事への取組が積極的になり、学校が楽しいと感じる生徒が増加した。

学年等	配置校数	配置人数
第1学年	61校	93人

(11) 教職員選考

決算額 4,546千円

優秀な教員確保のための教員採用選考及び管理職としての適格者採用のための校長・教頭選考考査を実施した。

区分		受験者数	合格者数	合格率
新規 採用 教員 選考	小学校	439人	105人	23.9%
	中学校	838	230	27.4
	高等学校	482	36	7.5
	特別支援学校	197	50	25.4
	養護教員	126	20	15.9
	計	2,082	441	21.2
校長選考考査		248	84	33.9
教頭選考考査（小中）		467	86	18.4
教頭選考考査（県立）		83	22	26.5

(12) 学校経営指導

決算額 4,043千円

学校教育に関する指導や指導主事会議等を行い、適切な学校経営が行われるように努めた。

(13) 学力向上

決算額 9,498千円

- ① 学習指導要領の改訂を受けて、各教科別に新教育課程説明会を開催するとともに、「はばたく群馬の指導プランⅡ」に基づく公開授業を行った。また、「全国学力・学習状況調査結果を踏まえた指導の改善充実に向けた説明資料（音声付き）」を作成し、Webに掲載した。

区 分	事業費
ぐんま「確かな学力」育成プロジェクト	3,990 千円

- ② 義務教育課に1名の外国語指導助手支援員を配置し、小中高教員や外国語指導助手の指導方法に係る研修の講師を務めたり、外国語指導助手の活動に係る指導助言等を行うなど、各学校の英語教育の充実を支援した。

区 分	事業費
外国語指導助手支援員	4,512 千円

(14) 児童生徒の心のケアシステム推進 決算額 244,463千円

教育相談体制や問題を抱える子どもへの支援体制の充実を図るなど、いじめや不登校等の未然防止、早期発見、問題の改善等に資する諸施策を総合的に推進した。

事業内容	事業費
・スクールカウンセラーの配置（小学校全校306校、中学校全校161校） ・スクールカウンセラースーパーバイザーの配置（5教育事務所）	240,199 千円
・いじめ対策等生徒指導推進事業（県総合教育センターでの取組）で、自立支援アドバイザーによる県内適応指導教室への指導助言、指導者講習会の実施（53人参加）	4,264
計	244,463

(15) いじめ問題対策推進 決算額 1,824千円

いじめ問題の解決のため、児童生徒によるいじめ防止活動の推進や県いじめ問題対策連絡協議会の開催等を実施した。各学校では、児童生徒の実態に即しいじめ防止活動の充実が図られた。

また、児童生徒と保護者・地域住民がいじめ問題について話し合ったり、共に実践活動を行うなど、地域・保護者と連携しいじめ防止活動の充実を図った。

事業内容	事業費
・県内12地区で「いじめ防止フォーラム」を実施 ・いじめ防止ポスターの作成・配布 11,500部 ・いじめ問題対策連絡協議会を书面開催し、「いじめの解消のために大人たちができること」について意見を集約した。	1,824 千円

(16) 学びと家庭のサポート 決算額 46,156千円

生徒指導体制や指導方法の充実を図るなど、非行等問題行動の未然防止や早期解決に資する諸施策を総合的に推進した。

事業内容	事業費
・スクールソーシャルワーカー（SSW）を配置 派遣型SSW（3教育事務所）市町村からの要請に対応 巡回型SSW（5教育事務所）36の指定中学校区を定期的に巡回	9,610 千円

事業内容	事業費
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導担当嘱託員の配置（中学校18校） ・携帯インターネット問題指導者講習会の実施（県内全小中学校の生徒指導担当者が参加） ・関係機関担当者、市町村教育委員会担当者による問題行動対策会議を実施（4回） ・県警少年育成センターに育成指導員を配置（1人） 	36,546 千円
計	46,156

(17) 学校教育振興

決算額

85,106千円

- ① 特別活動やキャリア教育に関する実践発表及び有識者による講義を通して、キャリア教育の在り方についての理解を深め、各学校・地域の実情にあったキャリア教育の取組を、群馬県小学校特別活動研究部会、群馬県中学校特別活動研究部会、群馬県進路指導研究部会と連携して推進した。

区分	事業内容	事業費
キャリア教育推進	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県キャリア教育研究大会 ・キャリア教育ガイドブックの活用 	19 千円

- ② 学校とボランティアとの連絡・調整機能を果たす「学校支援センター」の運営を推進するため、ボランティア保険に加入し、ボランティアが安心して学校を支援できる体制を整えた。

区分	事業内容	事業費
学校支援センター運営推進	ボランティア保険の加入（14,775人）	739 千円

- ③ 集住地域を中心とした、帰国・外国人の子供への一貫した支援体制構築のため、日本語指導補助者等の配置や初期指導教室の実施、拠点校の設置等、地域・学校での受け入れ体制を整備した。

区分	事業内容	事業費
帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援	日本語指導助手等の配置（63人）	77,193 千円

- ④ 研究指定校による学校や地域の特色を生かした道徳教育に関する取組の成果を県内学校に発信した。また、小、中学校等の道徳教育担当教員を対象に道徳教育研究協議会を開催し、教科化に対応した授業改善に関する情報を提供した。

区分	事業内容	事業費
道徳教育総合支援	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育研究指定校(小・中・高各1校) ・道徳教育研究指定地域（1地域） ・小学校道徳教育研究協議会（299人） ・中学校道徳教育研究協議会（179人） 	2,293 千円

- ⑤ 本県の幼児期の教育及び保育の更なる充実を図るため、「就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン」の周知及び活用推進していくための会議を実施した。

区分	事業内容	事業費
就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン	・「就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン」推進会議 年1回（11人）	38 千円

- ⑥ へき地学校の教育条件整備及び教育活動の充実に係る補助金を交付するとともに、へき地教育研究大会を実施し、へき地の学校間の交流を促進した。

区 分	事 業 量	事 業 費	備 考
群馬県へき地教育振興会補助	1 件	95 千円	県へき地教育振興会
へき地教育センター運営費補助	2 か所	760	吾妻・利根郡へき地教育センター

- ⑦ 中学生の科学に対する興味・関心を高めるとともに、探究心や創造性に優れた人材を育成するため、科学や数学に関わる筆記問題や実技競技に取り組む「科学の甲子園ジュニア群馬県大会」及び事前研修会を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
科学の甲子園ジュニア群馬県大会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次予選（41チーム） ・第2次予選に向けた事前研修会（14チーム） ・第2次予選（14チーム） ・県大会優勝・準優勝チームによる全国大会への出場（6人） 	636 千円

- ⑧ 学校生活に対する不安や悩みを抱えた外国人児童生徒等とその保護者に対して、母語での対応可能な教育相談やカウンセリング及び学習支援等の支援を行った。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
外国人児童生徒等教育・心理サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・電話相談窓口 支援実績(125件、48人) ・母語カウンセリング 支援実績(142件、38人) ・日本語・教科学習支援 学校内支援(155件、42人) 学校内支援(124件、53人) ・心理サポーター養成講座 受講登録者数(21人) 	2,734 千円

(18)人権教育推進

決算額 1,684千円

- ① 人権教育の総合的な推進を図るため、研究指定校及び推進地域を設定するとともに、小、中学校等の人権教育担当教員を対象にした推進協議会を開催することにより、学校における人権教育の充実に図った。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
人権教育研究推進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育研究指定校(小・中各1校) ・人権教育総合推進地域(1中学校区) ・小学校人権教育推進協議会(260人) ・中学校等人権教育推進協議会(141人) ・公立高校等人権教育推進協議会(106人) 	1,008 千円

- ② 各学校の人権教育担当者の資質向上を図るため、人権教育に関わる授業研究会を中心とした地区別人権教育研究協議会を開催した。

区 分	日 数	参加人員	事 業 費
地区別人権教育研究協議会	5 日	326 人	104 千円

(19)人権教育啓発普及

決算額 715千円

- 同和地区住民の自立を目的に委託事業を実施し、住民の人権文化構築への意識の高揚を図った。

区 分	事業量	事業費	委託先
人権教育推進事業委託	15 市町村	700 千円	部落解放同盟群馬県連合会

(20) 学校経営管理指導 決算額 18,201千円

- ① 新しい環境教育を創造・推進する尾瀬高校の教育目標を達成するため、学校、地元
の一般家庭(ホストファミリー)及び地域社会の三者間の連携・協力により通学困難な
生徒を円滑に受け入れる、本県独自の尾瀬ハートフルホーム・システムを実施した。

区 分	事業内容	事業費
宿舎整備・ ホームステイ指導	ホームステイ生徒数に応じて、ホストファミ リー先を確保 ・ホームステイ生徒 29人 ・ホストファミリー 9軒	10,462 千円
ふれあい交流	入寮生徒・家族とホストファミリーとの 交流会 1回	
夏季公開講座	自然環境棟等を活用した8講座を自然環境科 の生徒が講師を務めて実施	

- ② 県立嬭恋高校スポーツ・健康コース(スケート実技選択)での修学を支援するため、
下宿等を利用している者に対し、賃料相当額の一部を補助した。

区 分	事業内容	事業費
高等学校特別修学支援	・下宿等を利用している生徒 5人	1,200 千円

- ③ 「高校教育改革推進計画」に基づく高校教育改革の推進のため、桐生・みどり地区
において、令和3年度に開校予定の2校の新高校の校名を決定した。また、「第2期
高校教育改革推進計画」策定に向け、群馬県高校教育改革検討委員会等を開催した。

区 分	事業内容	事業費
高校教育改革推進	・桐生・みどり地区及び沼田・利根地区 において、地区代表との意見交換会等 及び群馬県高校教育改革検討委員会等 を開催 ・桐生・みどり地区の2校の新高校の校 名を決定・公表	912 千円

- ④ 平成15年度から実施している連携型中高一貫教育及び平成16年度に設置した県立中
央中等教育学校の学校運営を支援し、中高一貫教育の推進を図った。

区 分	事業内容	事業費
中高一貫教育推進	県立中央中等教育学校及び連携型中高一 貫教育校の教育課程及び学校運営に係る 教育実践への支援	310 千円

(21) 学力向上 決算額 113,363千円

- ① 高校生の外国語でのコミュニケーション能力の育成と国際理解教育の推進を図る目
的で、24人の外国青年を外国語指導助手として招致した。外国語指導助手は、日本人
教員とチームティーチングで英語の授業を行い、生徒の英語コミュニケーション能力
向上に寄与した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
外国語指導 助手招致	24人の外国語指導助手を招致し、県立高校及び中等教育学校24校の配置校及び27校の定期訪問校で活用	105,922 千円

- ② 数学コンテストを実施し、高校生に数学的な見方や考え方のよさを認識させるとともに、数学的な知識・技能を積極的に活用する態度を養う機会とした。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
群馬県高校生数学 コンテスト	7月23日 参加者 509人 場所：前高・高高・太高・渋高	89 千円

- ③ 県内の科学好きな高校生が6～8人のチームとなり、理科・数学・情報など複数分野の競技を行う大会を科学の甲子園全国大会の群馬県予選として実施した。科学の楽しさを知り、科学的な知識・技能を活用する能力を養う機会とした。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
科学の甲子園 群馬県大会	[競技内容] はがきサイズの用紙で探査機を製作し、決められた高さから探査機を投下したときの落下時間と正確性を競う。 10月27日 [筆記競技・実験競技] 12月14日 [課題実技競技] 参加校16校、場所：群馬大学荒牧キャンパス	100 千円

(22) キャリア教育・進路指導

決算額

9,329千円

- ① 生徒一人一人が主体的に将来の生き方を考え、適切な選択を行えるよう、教員や保護者を対象としたキャリア教育に関する研修会、キャリア教育・進路指導研究協議会の開催等、組織的・系統的なキャリア教育を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
キャリア教育 サポート	・キャリアアドバイザー活用 (34時間) ・キャリア教育・進路指導研究協議会 (2回)	340 千円

- ② 県立高校等の生徒を対象に、インターンシップ（就業体験）等を実施し、実際的な知識・技術の体得や望ましい職業観や勤労観の育成を図った。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
高校生等インターンシップ推進	県内の高校生6,863人が、延べ2,394社の企業でインターンシップ（就業体験）に参加した。	445 千円

- ③ 高校に地元企業等から講師を招へいし、生徒に優れた知識や技術を学ぶ機会を与え、時代の進展や社会のニーズに対応した教育を推進した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
総合学科等講師派遣	総合学科、単位制高校等 10校(200時間)	1,075 千円
特別学科講師派遣	スポーツ科又は芸術科設置校 1校(110時間)	

- ④ 介護職員初任者研修修了及び介護福祉士の資格取得を目指す高校を対象に、医師、看護師等を社会人講師として招へいするとともに、福祉施設に実習を委託し、福祉教育の充実を図った。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
福祉資格取得推進	・福祉科目等設置校 7校(695時間) ・介護福祉士合格者数 39人(2校)	2,495 千円

- ⑤ 農業・工業・商業の各分野において、地域産業界と連携し、現場実習等を実施し、産業界から求められる人材の育成につながる各種の取組を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
次代を担う職業人材育成 (専門学科講師を含む)	・人材育成委員会を設置するとともに、 指定校4校において、教育プログラム を実施 ・職業学科等設置校15校(391時間)に 専門学科講師を派遣	4,974 千円

(23) 生徒健全育成 決算額 55,165千円

- ① 中学生と高校生の問題行動防止と健全育成推進を図るため、県内12地区に設置された中学校・高等学校生徒指導対策協議会において、中・高が連携しての非行防止活動や生徒指導に係る研究調査活動及び中高交流活動等を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
中学校・高等学校生徒 指導対策協議会補助	県内12地区の各中学校・高等学校生徒 指導対策協議会に補助	300 千円

- ② 全国高等学校総合文化祭群馬大会（ぐんま総文：平成20年度開催）の成果を継承し、高校の芸術・文化活動に関する総合的な発表会を開催した。約6,000人が参加して生徒相互の交流を深め、文化活動等の積極的推進を図った。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
高校いきいき文化活動推進	第25回群馬県高等学校総合文化祭を 開催(10月19日～11月17日、 場所:群馬音楽センターほか)	1,927 千円

- ③ 教育相談体制充実のため、県立高校等にスクールカウンセラーを配置し、生徒・保護者へのカウンセリング及び教職員への助言・援助などを行った。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
児童生徒の心のケアシス テム推進(スクールカウンセラー)	スクールカウンセラーの配置(42人、62校 (全校))	41,723 千円

(24) 学校教育振興 決算額 3,041千円

勤労青少年の定時制高校への修学を促進し、教育の機会均等を保障するため、高等学校定時制課程に在学する生徒を対象に修学奨励金を貸与した。

区 分	事業量	奨 励 金	事 業 費
高等学校定時制課程修学奨励金	17 人	月額 14,000 円	2,814 千円

(25) 職員健康管理 決算額 102,472千円

教職員の健康管理のために、定期健康診断や、公立学校共済組合を通じた各種福利厚生事業を実施し、教職員が安心して職務に専念できる環境を整備した。

① 直接事業

区 分	事 業 内 容	事 業 費
定 期 健 康 診 断 等	対象者 県立学校職員・事務局等職員 2,387人 血圧・胸部X線検査等 V D T 健 診 217 胃 が ん 検 診 553 大 腸 が ん 検 診 622 肺 が ん 検 診 168 B型肝炎予防ワクチン接種 167 前立腺がん検診(PSA) 205 新規採用者採用時健診 102 特定業務従事者健診 89 破傷風ワクチン接種 3	24,546千円
ス ト レ ス チ ェ ッ ク	対象者 県立学校職員・事務局等職員 5,249 ストレスチェック受検者 ストレスチェック結果活用研修 ・集団分析結果研修(管理監督者・衛生管理者) 158 ・セルフケア研修(一般職員) 59	4,041
メンタルヘルス 対 策	研修(講義及びワーク) ・新任事務局職員向け(1回) 68 ・ミドルリーダー向け(1回) 141 ・総合教育センター研修内(10回) 716 相談 ・精神科医による面談 10 ・県立学校への訪問支援(保健師) 13 精神保健審査会運営(6回) 158	823
研修・健康教育	禁煙サポートセミナー 14	51
計		29,461

② 補助事業

対 象 団 体	事 業 内 容	事 業 費
公立学校共済 組合群馬支部	公立学校共済組合福祉事業補助 人間ドック、教職員カウンセリング及び骨 密度検診事業に対する助成	73,011千円

(26) 退職手当の支給

決算額 14,412,320千円

退職した教職員に対し、次のとおり退職手当を支給した。

区 分	定 年 退 職		勸 奨 退 職		普 通 退 職		計	
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額
小 学 校	253 人	5,677,402 千円	59 人	1,286,721 千円	1,026 (1,001) 人	264,478 (140,384) 千円	1,338 (1,001) 人	7,228,601 (140,384) 千円
中 学 校	119	2,654,351	20	447,397	495 (476)	209,345 (64,323)	634 (476)	3,311,093 (64,323)

区 分	定 年 退 職		勸 奨 退 職		普 通 退 職		計	
	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額	人 員	金 額
高等学校	人 114	千円 2,543,279	人 12	千円 253,415	人 465 (452)	千円 166,334 (57,072)	人 591 (452)	千円 2,963,028 (57,072)
特別支援 学 校	25	542,385	11	253,178	534 (523)	114,035 (72,955)	570 (523)	909,598 (72,955)
計	511	11,417,417	102	2,240,711	2,520 (2,452)	754,192 (334,734)	3,133 (2,452)	14,412,320 (334,734)

(注) ()内は内数で臨時的任用職員を示す。普通退職は失業者の退職手当を含む。

(27) 県立文書館運営

決算額 47,798千円

郷土に関する歴史的価値のある古文書・記録及び行政文書・行政資料等を収集、整理、保存し、県民の利用に供するとともに、調査、研究に基づく展示、講座、刊行物発行などの普及活動を行い、本県の教育、学術、文化の向上に寄与した。

また、史料展示、古文書講座、「ぐんま史料講座」の開催など「県民に開かれた文書館を目指す」活動を通して、県民の郷土の歴史に対する関心に応えるとともに、地域史料の保存事業に関する理解の促進に努めた。

区 分	事 業 内 容
公文書等の収集整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知事部局及び教育委員会から公文書の管理委任・引継を受けた（626冊）。 ・ 廃棄文書の中から郷土に関する歴史的価値があるものを選別収集し整理を行った（1,050冊）。 ・ 行政資料を収集し整理を行った（443冊）。 ・ 国重要文化財に指定された文書のうち、未修理であった明治期絵図を国庫補助事業により専門業者に委託して修理した（3点）。
古文書の収集整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文書調査員18人を委嘱し、古文書の所在調査、情報収集及び保存指導等を行った。 ・ 本県の各地域から寄贈・寄託文書として4件、872点を受け入れた。 ・ 「川端家旧蔵文書」、「三俣経久家文書」、「片山紀道家文書」など合計13件、10,710点の古文書・マイクロ収集文書を閲覧公開し、検索の便に供した。 ・ 『群馬県史』編さん当時の収集資料に係る追跡調査を行った。 ・ 『ぐんまの古文書続編－文書館の古文書70選－』を刊行した。
教育普及活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文書講座（入門5回・長期11回）を開催し、計140人が受講した。 ・ 館所蔵の史料を紹介する「ぐんま史料講座」2回を開催し、計119人が受講した。

区 分	事 業 内 容														
(教育普及活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村職員対象の「公文書等保存専門講座」及び「地域史料等保存活用研修会」の開催に協力し、それぞれ18人と43人が受講した。 ・テーマ展示「いい湯だなあ〜♪ ーぐんまの温泉 今・昔ー」及び「上州湯めぐり ものがたり」を県立図書館等と連携し、順次開催した。それぞれ1,230人と737人が観覧した。このほか、緊急展示「新元号令和の出典『万葉集』巻第五」及び改元記念展示「明治・大正・昭和・平成の改元」を開催した。また、県立図書館等と連携して群馬プレデスティネーションキャンペーン連携展示「群馬の温泉」を開催した。 ・群馬県民の日記念及び県立文書館開館記念日事業「群馬の温泉めぐり ～明治・大正・昭和の史料を読む（テーマ展示と連携開催）」と展示解説会（3回：文書館公文書係職員）を開催し、延べ48人が参加した。 ・『文書館だより』第63、64号を刊行した。 ・群馬県史関係資料や公開文書目録、グッズなどの刊行物等を販売した（125点 117,885円）。 														
県史普及活用	<ul style="list-style-type: none"> ・『群馬県史』編さん当時の収集資料を閲覧等の利用に供した。 														
収蔵文書の現況及び閲覧利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・収 蔵 文 書 <table border="1" data-bbox="603 1131 1380 1265"> <thead> <tr> <th>公文書等</th> <th>古文書</th> <th>県史編さん 事業引継文書</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>215,022冊</td> <td>496,627点</td> <td>93,266点</td> <td>804,915点</td> </tr> </tbody> </table> ・閲覧等利用状況 <table border="1" data-bbox="603 1310 1380 1400"> <thead> <tr> <th>閲覧者数</th> <th>閲覧冊数</th> <th>レファレンス(相談等)件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,629人</td> <td>6,711冊</td> <td>183件</td> </tr> </tbody> </table> 	公文書等	古文書	県史編さん 事業引継文書	計	215,022冊	496,627点	93,266点	804,915点	閲覧者数	閲覧冊数	レファレンス(相談等)件数	1,629人	6,711冊	183件
公文書等	古文書	県史編さん 事業引継文書	計												
215,022冊	496,627点	93,266点	804,915点												
閲覧者数	閲覧冊数	レファレンス(相談等)件数													
1,629人	6,711冊	183件													

(28) 総合教育センター運営

決算額 155,637千円

幼児・児童・生徒の「生きる力」の育成に向けて教職員の資質向上を図るため、研修講座、教育研修員研修、調査研究に取り組むとともに、教育情報の提供、各種相談事業、幼児教育支援などを行った。

① 研修・研究

ア 研修講座

教職員の経験や職種・職務に応じた研修を実施し、教職員の資質向上を図った。

区 分	開催日数	受講者	事業費	
基幹研修	初任者・経験者研修等 27研修	182日	1,776人	13,498千円
指定研修	管理職研修等 25	48	1,312	
希望研修	各教科研修等 47	118	2,453	
公開講座	各教科・領域研修等 2	2	48	
計	(101研修講座)	350	5,589	

イ 教育研修員研修

長期研修、長期社会体験研修、特別研修を通して、人材の育成を図った。

区 分	概 要	研修員数	事業費
長期研修	総合教育センターで1年間の研修を行い、教育課題の解決に向けた研究に取り組むとともに、所属校の校内研修に参画し、実践的な指導・助言力を高めた。	18 人	514 千円
長期社会体験研修	企業等において1年間の研修を行い、社会的識見を高め、教科の専門性を深めるとともに、キャリア教育の充実に生かした。	7	
特別研修	学校に勤務しながら、総合教育センターで年間25日の研修を行い、児童生徒の実態に応じた授業実践を通して教科指導力等を高めた。	39	

ウ 調査研究

教育の今日的な課題等の解決に向け、テーマを設定して調査研究に取り組んだ。

区 分	概 要	事業費
調査研究	「高等学校における特別な配慮が必要な生徒への切れ目ない支援の実現に向けて」等をテーマとして調査研究を行い、Web ページ等を用いて成果を公表した。	311 千円

② 教育情報の提供

ア カリキュラムセンター

特色ある学校づくりと授業の充実に向けて、県内外の教育関係資料の提供・貸出や「研修支援隊」として、指導主事が学校へ出向いて講義をするなどの支援を行った。

区 分	件 数		事業費
教育関係資料の提供・貸出	教育関係資料、図書等貸出	3,021 冊	2,634 千円
	教育用ビデオ・DVD貸出	154 本	
	教育資料複写	26 件	
研修支援隊	研修支援隊	89	254
	教材・教具の貸出・提供	926	
計			2,888

イ ぐんまスクールネット

県内の県立学校を光回線で結んだ教育用ネットワークシステムの拠点として、各学校のウイルス対策、外部記憶媒体、各種アップデート等の一元管理を行った。

区 分	接 続 校 数	事業費
県立高等学校 (中等教育学校含む)	62 校	68,667 千円
県立特別支援学校	22	

ウ ぐんま教育フェスタ

授業改善など教育の質の向上につながる講演・研究成果の発表・表彰等を通して、次代を担う子供たちの確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の育成に必要な情報を発信し、本県の教育の在り方について考える機会とした。

区 分	人 数	事 業 費
来 場 者 数	774 人 (実人数)	356 千円
特 別 講 演	250 (延べ人数)	
研 究 発 表	674 (延べ人数)	
参加者体験(8企画)	793 (延べ人数)	

エ ぐんま教育賞

「杉の子賞（教職員の部）」の部門で本県教育の向上に関する論文等を募集し、優れた作品を表彰するとともに、Web ページに掲載して成果の共有を図った。

区 分	応募数（入賞数）	事 業 費
杉の子賞（教職員の部）	27 編（4 編）	95 千円

③ 相談対応

子ども教育相談室において、教育や子育てに関する子どもや保護者等からの相談に応じた。また、相談事業を周知するため、県内各園の全園児の保護者・教職員及び各校の児童生徒・教職員を対象に「子ども教育相談カード」を配布した。

区 分	作成枚数	事 業 費
子ども教育相談カード 県内全ての幼稚園、保育所（園）、幼保連携型認定こども園、小・中・高等学校、中等教育学校及び特別支援学校 等	340,000 枚	302 千円

ア 教育相談

児童生徒、保護者や教職員を対象に学校や家庭での生活に関する来所・電話相談等に応じ、相談者が直面する問題の解決を図った。特に、いじめ問題や虐待については、関係課・機関と連携するなど迅速・的確に対応した。また、子育てに不安を抱えている保護者、教職員・保育士等を対象に来所相談、電話相談に応じ、子どもとの接し方等の助言を行った。

教 育 相 談	件 数	事 業 費
来 所 相 談	130 (1) 件	
電 話 相 談	3,375 (202)	
子 育 て 相 談	件 数	10,307 千円
来 所 相 談	2 件	
電 話 相 談	149	

※()内は、いじめ相談の件数で内数

イ こどもの発達相談

乳幼児や児童・生徒とその保護者、教育及び保育に関わる者を対象に子どもの発達や障害に関する相談に応じ、子どもへの理解や関わり方等の助言を行った。

こどもの発達相談	件 数	事 業 費
来 所 相 談	360 件	5,282 千円
電 話 相 談	145	
訪 問 相 談	1	

④ 幼児教育応援

幼児教育や家庭教育の充実を図るため、県内の幼稚園・保育所・認定こども園・子育て支援団体・保護者等を対象に研修等を実施した。

区 分	回 数	参加者数	事 業 費
夕やけ保育研修会 (幼稚園・保育所等の教職員を応援)	12 か所	700 人	468 千円
保育アドバイザー (幼児教育の専門家) による出前研修	104	4,774	

2 小 学 校 費

- (1) 教職員給与・旅費 決算額 54,710,549千円
 公立小学校の教職員7,071人 (令和元年5月1日現在) の給与費54,558,418千円、
 研修旅費等152,131千円

3 中 学 校 費

- (1) 教職員給与・旅費 決算額 33,163,184千円
 公立中学校等の教職員4,156人 (令和元年5月1日現在) の給与費32,975,520千円、
 研修旅費等187,664千円

4 高 等 学 校 費

- (1) 教職員給与・旅費 決算額 29,032,650千円
 県立高等学校等の教職員3,373人 (令和元年5月1日現在) の給与費28,829,211千円、
 研修旅費等203,439千円

- (2) 産業教育設備等の充実 決算額 310,069千円
 産業教育振興法等に基づき産業教育設備等の整備充実を図った。

区 分	事 業 費
産 業 教 育 設 備	283,882 千円
定 時 制 通 信 制 教 育 振 興	725
教 育 コ ン プ ュ ー タ 設 備 等	25,462
計	310,069

- (3) 県立学校 I C T 環境整備 決算額 93,467千円
 新学習指導要領に基づいた教育を実現するため、県立学校に必要な I C T 機器や設
 備等を整備した。

区 分	事 業 費
高 等 学 校 等	77,383 千円
特 別 支 援 学 校	16,084
計	93,467

- (4) 生徒情報管理システム (県立学校統一版) 決算額 44,934千円
 学校で管理している生徒情報・成績情報等の個人情報漏えいリスクを低減するため、
 物理的に堅牢かつサイバー攻撃に対して優れた耐性を有するデータセンターで一元管
 理する新システムを先行導入校 (20校) で導入した。

(5) 県立学校緊急情報セキュリティ対策 決算額 369,069千円

老朽化し、セキュリティ対策が不十分な県立学校のパソコンを更新し、セキュリティ対策がとれる状態を維持した。

区 分	事業費
高等学校等	326,486 千円
特別支援学校	42,583
計	369,069

(6) 高等学校施設整備等 決算額 2,717,520千円

高等学校施設等の改善を図るため、桐生・みどり地区新高校整備、施設長寿命化、ブロック塀安全対策工事等を実施した。

区 分	事業費
桐生・みどり地区新高校整備	1,074,646 千円
学校施設災害復旧	34,980
県立学校施設長寿命化推進	1,043,449
県立学校施設ブロック塀安全対策	269,805
富岡実業高校農業施設等移転整備	20,136
県立学校空調設備整備	104,664
学校施設特別維持整備	91,644
高等学校財産管理	78,196
計	2,717,520

5 特別支援学校費

(1) 教職員給与・旅費 決算額 13,567,118千円

公立特別支援学校の教職員1,684人（令和元年5月1日現在）の給与費13,520,064千円、研修旅費等47,054千円

(2) 特別支援学校施設整備 決算額 824,218千円

特別支援学校施設の改善を図るため、藤岡特別支援学校の高等部整備、施設長寿命化、ブロック塀安全対策工事等を実施した。

区 分	事業費
特別支援学校整備	440,434 千円
特別支援学校施設長寿命化推進	249,524
県立学校施設ブロック塀安全対策	87,778
学校施設特別維持整備	30,363
特別支援学校財産管理	16,119
計	824,218

(3) 特別支援教育振興 決算額 128,749千円

- ① 小中学校等における障害のある児童生徒に対する教育に関し、各教育事務所に配置している特別支援教育専門相談員や県立特別支援学校の専門アドバイザーが小中学校等を訪問し、教員等に対して必要な助言・援助を行った。

区 分	相談件数	事業費
特別支援教育専門相談員による相談	3,406 件	12,612 千円
特別支援学校専門アドバイザーによる相談	9,746	
計	13,152	

- ② 県立特別支援学校に在籍する医療的ケアが必要な児童生徒に対し、看護師（11校に26名）の派遣等を行った。

区 分	対象児童生徒数	事業費
特別支援学校医療的ケア支援	79 人	50,438 千円

- ③ 県立特別支援学校9校に就労支援員5人を配置し、主に知的障害のある生徒の就業体験先等の開拓等を行った。

区 分	事業所数	事業費
就業体験受入等可能事業所	443 事業所	12,734 千円

- ④ 県と関係市が連携協力して、特別支援学校の教育内容の充実を図るため、特別支援学校設置市に対し運営費及び施設整備費の補助を行った。

区 分	事業量	事業費
市立特別支援学校費補助	高崎市	17,930 千円

(4) 特別支援学校就学奨励

決算額 206,155千円

特別支援学校に就学している児童生徒等の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図るため、就学に要する経費を支給した。

区 分	事業量	事業費
県立特別支援学校	22 校 1,686 人	179,652 千円
市立特別支援学校	3 333	23,209
私立特別支援学校	1 26	3,294
計	26 2,045	206,155

6 社会教育費

(1) 社会教育の振興

決算額 9,141千円

家庭教育に対する支援を図るとともに、社会教育行政職員等の研修体制の整備を推進した。

区 分	事業内容	事業費
社会教育委員運営	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育委員会議（定例会、臨時会、視察） 社会教育委員研究会議 （縣市町村新任社会教育委員研修 131人、社会教育研究大会 231人） 	651千円
社会教育研修支援	<ul style="list-style-type: none"> 地区別社会教育主事等研修講座 （9講座、469人） 県社会教育主事等職員研修（参加者85人） 地区別PTA指導者研修（5回、725人） 	633

区 分	事 業 内 容	事 業 費
家 庭 教 育 支 援	<ul style="list-style-type: none"> ・親の学びプログラム普及・実践 出前講座の実施（100回、4,753人） ・ファシリテーター養成講座（修了者28人） ・「家庭教育応援フォーラム」 （参加者108人） ・地区別家庭教育支援連携会議 （5回、参加者延べ119人） ・市町村家庭教育支援担当者等研修会 （参加者41人） ・家庭教育支援モデル事業 （5教育事務所、409人） ・普及啓発リーフレット作成 	391千円
人 権 教 育 推 進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育指導者養成講座（5市町村に委託） ・人権教育研修（10回、1,249人） ・集会所等における人権教育推進事業費補助 （63か所 16市町村に補助） 	4,107
読 書 活 動 推 進	<ul style="list-style-type: none"> ・ぐんま読書フェスティバル 観覧者 143人 ・群馬県読書活動推進会議の実施（3回） ・群馬県読書活動推進計画の策定 ・優良図書館、読み聞かせボランティアグループ等の表彰 	720
社 会 教 育 啓 発	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課運営 	2,639
計		9,141

(2) 社会教育関係団体育成 決算額 2,783千円

社会教育関係団体の財政基盤を強化するため、運営費の一部を補助、支援した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
社会教育関係団体育成	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県地域婦人団体連合会ほか11団体に補助 ・優良公民館、PTA等の表彰 	2,783 千円

(3) 教育放送 決算額 63,129千円

子どもたちを取り巻く課題や、現場での取組の現状を幅広く紹介することで、教育行政への理解を深め、新たな支援活動に取り組むきっかけ作りとなることを狙いとして、群馬テレビを通じて教育番組を制作・放送した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
はばたけ！ぐんまの子どもたち	年24回放送	63,129 千円

(4) 青少年教育振興 決算額 500千円

上毛かるた競技県大会を、県及び（公社）県子ども会育成連合会と共に開催した。

事 業 内 容	実 施 日	事 業 費
参加選手数290名、参加団体数延119団体	令和2年2月15日（土）	500 千円

(5)生涯学習の振興

決算額 24,600千円

県民がいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができるよう、ぐんま県民カレッジ各講座などを提供するとともに、学校・家庭・地域が連携した取組を通じて、地域の教育力の総合的な向上を図った。

① ぐんま県民カレッジ主催講座

高校や専修学校・大学等、様々な教育機関と連携して、多様な学習機会の提供を行った。

区 分	講座数	受講者数	事業費
地域の学校開放講座	7講座	174人	292千円
大学等出前講座「オープンキャンパス」	14	延べ 412	308
計	21	延べ 586	600

② 学校・家庭・地域の連携の強化

区 分	事業内容	事業費
地域と学校のパートナーシップ推進	・各教育事務所において、地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム及び社会教育主事による学校等訪問を実施した。 フォーラム 5回 社会教育主事の学校等訪問 116回	446千円
学校支援センター推進研修会	・各教育事務所において、学校支援センターにおけるコーディネーター等の養成や資質向上を図るための研修を実施した。 研修参加者 計312人	307
計		753

③ 昆虫の森・天文台自然学習教室

ぐんま昆虫の森やぐんま天文台が提供するプログラムにより自然・環境学習を行った小学校等に対し、バス借上料の一部を助成した。

事業内容	事業費
180校 12,048人 356台	1,814千円

④ 放課後子ども教室

放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して全ての子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する放課後等の支援活動を行う取組を推進した。

実施内容	実施数	事業費
・体験活動（スポーツ、文化活動、学習活動等） ・地域住民との交流活動（文化協会等）	62教室 (22市町村)	15,251千円

⑤ 地域学校協働本部

学びによるまちづくりや、地域課題解決型学習、地域人材育成、郷土学習、地域行事への参加、ボランティア・体験活動、学校周辺環境整備など、地域と学校が連携・協働して行う取組を推進した。

実施内容	実施数	事業費
・教科指導・学校行事の支援 ・校舎内外の補修、清掃、環境整備 ・登下校時の安全指導等 ・部活動・読み聞かせ	11本部 (7市町村)	2,427千円

⑥ 外部人材を活用した教育支援活動

民間企業・団体等を中心として多様な経験や技能を持つ外部人材等の活用により、特色・魅力のある教育プログラムを企画・実施する取組を推進した。

実施内容	実施数	事業費
・体験活動（スポーツ、文化活動、学習活動等） ・補習的学習 ・読み聞かせ	21か所 (11市町村)	2,193 千円

⑦ 地域未来塾

学習が遅れがちな中学生等に対し、地域と学校の連携・協働による原則無料の学習支援を行う取組を推進した。

実施内容	実施数	事業費
・英語教室 ・プログラミング ・学習の個別指導	6教室 (6町村)	1,447 千円

⑧ 地域における家庭教育支援基盤構築

身近な地域における保護者への学習機会の提供や親子参加型行事の実施、相談対応等の支援活動を行う取組を推進した。

実施内容	実施数	事業費
・学習機会の提供 ・情報提供 ・サロン、相談対応	1か所 (1村)	115 千円

(6)生涯学習センター運営

決算額 83,510千円

本県生涯学習推進の中核的役割を担うセンターにおいて、様々な学習機会を提供するとともに、併設されている視聴覚センターや少年科学館を運営した。

区分	事業内容	事業費
生涯学習推進	<ul style="list-style-type: none"> ぐんま県民カレッジ運営 県、市町村、大学、高校、専修学校、博物館等施設など様々な機関の連携の下、学習サービスを体系的、総合的かつ広域的に提供する生涯学習システムを運用した。 連携機関数544機関、入学者402人 入学者累計(平成12年～)11,206人 課題解決支援 社会の急激な変化に対応し、地域課題解決に資する人材を育成するために、地域課題解決に関する知識・手法を学ぶ講座を開催した(391人受講)。 学習相談 県民に対し電話、FAX、面談等による学習情報提供や相談に応じた(410件)。 	2,129千円
まなびねっとぐんま企画運営	<ul style="list-style-type: none"> まなびねっとぐんまのシステム運用 インターネットから生涯学習情報を収集・発信できる「まなびねっとぐんま」の運用を行った(アクセス件数 53,440件)。 	2,010

区 分	事 業 内 容	事 業 費
視 聴 覚 教 育 推 進	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚センターの管理・運営 学校や社会教育団体等に視聴覚教材・機材の貸出を行った。 ・視聴覚教育指導者養成 視聴覚についての指導者養成研修を実施した。 	1,689千円
少 年 科 学 教 育 推 進	<ul style="list-style-type: none"> ・プラネタリウム運営 学校の教育活動の一環である学習投影及び一般投影を行った。 ・科学展示室運営 科学展示物の整備・充実とそれらを活用した教育普及活動等の充実を図った。 ・おもしろ科学教室 関係機関と連携して、小中学生向けの科学実験、科学工作等の教室を県内各地で開催した。 	2,334
施 設 管 理	・入館者数 255,364人	75,348
計		83,510

(7) 図書館運営

決算額 169,877千円

県内公共図書館の中心館として、高度情報サービスの提供や読書環境の整備などそれぞれの市町村の特性に応じた支援をするとともに、県民ニーズに対応した資料を収集、整理、保存、提供した。

また、図書館利用を促進する事業や読書活動を推進するための事業を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
図 書 館 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・施設維持管理委託等 入館者数 240,388人 個人貸出 294,447点 	73,918千円
子 ども の 読 書 活 動 推 進	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館こどもまつりの実施 ぐんま天文台等県の施設と連携した子ども向けイベント 参加人員 350人 ・学校図書館研修会の実施 参加人員 43人 ・学校図書館図書支援1000冊プラン 5町村 計2,720冊貸出 ・朝の読書活動推進セット・学習支援図書セット貸出の実施 朝の読書活動推進セット 年2回 29校 学習支援図書セット 随時 学校等54か所 ・全国高等学校ビブリオバトル群馬県大会 参加人員 129人（うち発表者18人） 本大会優勝者は、全国大会に出場 	4,073

区 分	事 業 内 容	事 業 費
図書館情報提供システム	<ul style="list-style-type: none"> 館内業務、ネットワーク業務、県民サービスの分野を包括する情報システムの運用 県内図書館相互の資料貸借の受発注や横断検索、調査相談データベースの利便性の強化を行った。 	42,361千円
市町村・学校等支援	<ul style="list-style-type: none"> 図書館未設置町村への支援 図書館未設置町村公民館図書室等に対して一括貸出を実施 県内公共図書館等支援 県内公立図書館、公民館図書室、大学図書館、高等学校図書館、専門図書館の間において図書資料の相互貸借を実施（定期巡回51館及び随時巡回） 読書会用図書貸出 県内22の読書グループへテキストとして貸出 	1,776
資料情報サービス	<ul style="list-style-type: none"> 図書館資料の収集、整理、保存、提供 児童図書、レファレンス図書、郷土資料、その他専門書等の充実を図った。 	47,749
計		169,877

(8) 青少年教育施設運営等

決算額

34,170千円

① 施設運営

青少年の宿泊共同生活を通じて、体験学習や自主的な研修を支援し、青少年及び青少年団体の健全育成を図った。

区 分	利用人員	事 業 費
北毛青少年自然の家	14,055 人	10,340 千円
妙義青少年自然の家	10,730	7,704
東毛青少年自然の家	26,955	11,960
施設管理		1,264
計		31,268

② 青少年教育振興

青少年を対象とした自然体験や社会体験等様々な体験活動事業を、県立青少年教育施設において実施した（※表の人数は実人数）。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
青少年自然体験推進	<ul style="list-style-type: none"> 親子体験活動 小学生親子 452人 自然体験活動 一般県民 2,400人 宿泊自然体験活動（3泊4日キャンプ） 小学校4年生～中学生 118人 	2,284 千円
青少年ボランティア養成・体験	<ul style="list-style-type: none"> 青少年ボランティア養成 高校生・大学生リーダー等 52人 青少年ボランティア体験 高校生ボランティア等 331人 	403

区 分	事 業 内 容	事 業 費
青少年自立支援	ぐんまいきいきチャレンジ 様々な要因により社会（学校を含む）とうまく関われない青少年（児童生徒を含む）とその保護者 699人	215 千円
計		2,902

(9)群馬県青少年会館運営等

決算額

75,520千円

① 青少年会館運営（指定管理）

群馬県青少年会館では、きめ細かく特色のある青少年の体験学習等の事業を実施した。なお、群馬県青少年会館は平成18年度から指定管理者制度を導入している。

区 分	指定管理者	利用人員	管理費用
群馬県青少年会館	(公財)群馬県青少年育成事業団	42,419人	67,311 千円

令和元年度青少年健全育成推進事業（指定管理業務としてのソフト事業）

事 業 内 容	事業量	参加人員等
青少年指導者養成 ・青少年指導者専門講座 ・リーダー指導者研修会 ・市町村青少年教育担当者研修会	1回 1 1	29人 5 49
青少年ボランティアの養成及び情報提供 ・ボランティア体験講習会 ・中学生・高校生交流ボランティア体験 ・体験活動・ボランティア活動支援センター	1 1 通年	17 28 相談14件
青少年の交流体験活動 ・ふれあい・ゆうあい交流フェスタ ・親子ふれあい会館ロジ ・国際交流推進	回 2 1	台風のため中止 60人 20
青少年団体の育成及び支援 ・青少年団体活動支援	通年	8回
情報収集・情報提供システム ・ぐんま青少年ねっと	通年	延べ176

② 青少年自立・再学習支援

不登校等、様々な悩みを抱える青少年を対象に、相談活動や体験活動等を通して自立を支援した。

事業内容	事業費
相談等件数 1,021件、体験活動 27件	5,000 千円

③ 学びを通じたステップアップ支援促進

高校中退者等を対象に高等学校卒業程度の学力を身に付けるための学習相談及び学習支援を行った。

事業内容	事業費
学習相談件数 620件 学習支援日 計76日、参加実人数 8人	3,209 千円

(10) ぐんま天文台運営

決算額

67,959千円

来館者のニーズに合わせた質の高いサービスの提供に努めるとともに、積極的な広報活動を行った。学校利用に関しては、学習活動内容に応じて柔軟に対応した。

さらに、天文学のすそ野拡大事業として、学校等に出向き、天体観察会、天文授業支援等のサポート事業を行った。

また、各種望遠鏡や観測装置等の適切な保守管理及び調整・運用を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
施設運営	・施設維持管理委託等 入館者数 39,786人	51,516 千円
教育普及	・天文台内の普及事業 ペルセウス座流星群説明会、観察会、ゴールデンウィーク特別企画、20周年企画等 (計26事業・112件・14,832人) ・学校利用の状況(天文台内) 保育園・幼稚園8園、小学校47校、中学校9校、高校33校、大学等18校、特別支援1校 (計116校・4,037人) ・天文台外の普及事業 子ども宇宙教室、天文セミナー、出前なんでも講座、親と子の星空の夕べ等 (計10事業・31件・28会場、1,855人) ・天文授業サポート(天文台外) 小学校30校、中学校7校、高校1校、特別支援学校3校 (計41校・2,655人) ・観望カレンダー「ほしぞら」の発行	1,169
観測研究	・望遠鏡・観測装置等の保守管理と調整・運用 ・年次報告書の作成	15,274
計		67,959

(11) ぐんま昆虫の森運営

決算額

96,541千円

子どもたちの自然・環境学習を始め来園者に対して、質の高いサービスの提供ができるように努めるとともに、安全な活動ができるよう施設の適切な維持管理に努めた。

また、学校利用の促進のため、各種教育プログラム等の充実及び学校利用説明会を実施するとともに、一般来園者の集客として、広報活動及び企画展、季節展等を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
昆虫の森運営	・フィールドの維持管理、建物施設の維持・管理 入園者数 123,997人	88,100 千円
昆虫展示	・第16回企画展「新種昆虫発見！」 ・季節展「虫たちの季節がやってきた！」 早春編、初夏編、秋の野山の昆虫展 昆虫たちの冬越し展 ・昆虫飼育	6,002

区 分	事 業 内 容	事 業 費
教 育 普 及	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会、クラフト体験、里山体験など各種プログラム ・学校利用説明会年5回開催（計112人） ・学校利用の状況 幼稚園・保育所139園、小学校285校、中学校3校、高校3校、特別支援学校2校（計432校） 	2,251 千円
調 査 研 究	研究成果発表、調査報告書作成	188
計		96,541

(12)文化財保存管理 決算額 38,188千円

文化財の保護と活用を図るため、指定文化財の保存修理や埋蔵文化財の発掘調査に対する事業費補助、パトロールや食害対策調査を実施して保存管理を進めた。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
文化財保存事業費補助	<ul style="list-style-type: none"> ・国 指 定 文 化 財 18件 ・県 指 定 文 化 財 17 ・埋蔵文化財発掘調査等 8 ・防災設備保守点検等 7 	33,823 千円
文化財パトロール	文化財保護指導委員31人（文化財の傷み具合や管理状況に係る報告：325件）	1,965
高山蝶パトロール	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒメギフチョウ：渋川市 20人 ・ミヤマシロチョウほか：嬭恋村 24人 	98
カモシカ食害対策調査	<ul style="list-style-type: none"> ・通常調査（越後・日光・三国山系、関東山地カモシカ保護地域：沼田市ほか4町村） ・嬭恋村におけるカモシカ等の食害調査・普及啓発と防獣柵の設置 	2,302
計		38,188

(13)緊急文化財保護対策 決算額 6,943千円

公共開発事業等が予定されている埋蔵文化財包蔵地について、事前に保護策策定のための試掘調査等を実施するとともに、県内の文化財情報を整備した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
公 共 開 発 関 連 埋蔵文化財緊急調査	公共開発事業等の事業地において埋蔵文化財の試掘調査等を実施（50件）	6,130 千円
統合型GIS更新	県の統合型GISシステム（マッピングぐんま）において、遺跡等の情報を公開し、随時最新情報に更新	813
計		6,943

(14)埋蔵文化財調査センター運営 決算額 40,502千円

埋蔵文化財調査センターの適正な管理運営を実施するとともに、埋蔵文化財についての理解を深めるための普及事業を実施した。

区 分	事 業 内 容	事 業 費
埋蔵文化財調査 センター管理運営	施設の維持管理	14,003 千円
埋蔵文化財調査 センター展示普及	発掘による出土品、考古資料等の管理及び活用、 各種普及啓発事業の実施及び普及啓発嘱託員の設置	26,499
計		40,502

(15) 偲ぶ毛の国群馬の魅力発掘・発信

決算額 101,176千円

全国に誇る県内の国・県指定文化財の整備保存を補助し、支援、指導を行って文化財の価値を高めた。また、観音山古墳や上野国分寺跡の見学、活用を図るとともに、古墳・金井東裏遺跡調査の活用、上野国分寺跡整備事業等を実施して新しい魅力の掘り起こしを図り、広く県内外に情報発信を行った。

区 分	事 業 内 容	事業費
文化財保存 事業費特別枠	・群馬の歴史や文化の特質を表す国指定文化財の保存整備事業を市町村等が実施するに当たり、18件の事業費の補助を行った。	千円 46,937
観音山古墳 保護管理運営	・史跡地内除草等の維持管理業務委託 ・駐車場賃借 ・解説員2人で見学者への説明に対応した。	4,352
上野国分寺跡 保護管理運営	・史跡地内除草等の維持管理業務委託 ・見学者のためのガイダンス施設運営。解説員3人で入館者への説明に対応した。 ・社会科見学や総合学習等での学校の利用を促進するため、史跡上野国分寺跡・史跡観音山古墳の見学案内チラシを作成し、学校及び学校教育関係会議で配布した。	6,244
上野国分寺跡 整 備	・追加の発掘調査による築垣版築等の確認 ・現地説明会の開催による調査成果の県民への還元 ・整備推進委員会の開催による国分寺整備内容の検討	11,810
古墳・金井東裏 遺跡情報発信	・「古墳学習プログラム」委員会運営と刊行・配布。 ・古墳現地の見学に活用できるスマホ用アプリによる情報発信と保守管理。 ・平成29年度に増刷した『群馬県古墳総覧』、『ぐんま古墳探訪』の両冊子について一般販売を行った。	794
「歴史の道」 活 用 促 進	・平成11年作成の「歴史の道シリーズパンフレット」15分冊のうち、前年度にリニューアルした8分冊をセット販売するとともに、残り7分冊のリニューアルを実施した。	3,102
ぐんまの寺社 魅力発掘・発信	・県内の装飾寺社建築と伝統芸能等について、予備調査と本調査（計380件）を実施した。また、ぐんま寺社巡りアプリ、寺社パンフレットを作成した。	27,937
計		101,176

7 健康体育費

(1) 健康管理

決算額

59,543千円

児童・生徒健康管理の強化充実を図るため、各種事業を実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、国からの要請を踏まえ、県立学校では3月2日から一斉休業措置を取り、市町村立学校（小・中学校等）についても、同様に対応していただけるよう協力を要請し、感染拡大防止に努めた。

区 分		事 業 内 容	事業費
児童生徒 健康管理	県立学校 児童生徒 健康診断	心臓、腎臓、貧血の検査を学校定期健康診断として実施した。	千円
		<ul style="list-style-type: none"> ・心臓検診 12,271人 (高校1年、特別支援小学部1年・4年・中学部1年・高等部1年、中等教育1年・4年) ・尿検査 37,977人 (高校、特別支援、中等教育全学年) ・貧血検診 4,940人 (高校2年女子、特別支援中学部2年・高等部2年女子、中等教育2年女子・5年女子) ・結核検診 胸部レントゲン撮影 11,870人 (高校1年、特別支援高等部1年、中等教育4年) 所見のあった者について、適切な事後措置を推進するとともに、医師からの指導事項や以後の受診結果を継続的に記録し、学校生活での適切な管理指導を実施した。	57,232
学校保健 管理指導	へき地 巡回検診	県医師会の協力を得て、眼科・耳鼻科の学校医のいないへき地学校に対して検診を行い、疾病の早期発見に努めた（7町村、11校）。	720
	学校保健 指導等	県立学校室内環境衛生検査（84校）	485
		簡易専用水道検査（県立学校57校、64箇所）	1,106
計			59,543

(2) 学校安全対策

決算額

198,350千円

児童生徒の安全確保を図るため、各種事業を実施した。

区 分		事 業 内 容	事業費
学校安全 指導	独立行政法人 日本スポーツ 振興センター 災害共済	県立学校児童生徒の学校管理下における事故や災害発生時に対応するため、災害共済に加入した（加入者数38,379人）。	千円
	都道府県立学校 管理者賠償責任 保険掛金	県立学校の施設の不備や管理上の瑕疵による事故等に基づく県への損害賠償請求に対応するため、保険に加入した（全県立学校84校）。	3,425

区 分		事 業 内 容	事業費
学校安全指導	安全教育推進指	公立小・中・高等学校の教職員等に対する研修会等を実施した。 ・スクールセイフティー推進 （2教育事務所、参加者150人） ・学校安全研究協議会・交通安全指導対策協議会・二輪車安全運転講習会 （5回、参加者515人） ・高等学校交通安全教室推進補助 （1件、72千円）	千円 219
	地域ぐるみの学校安全体制整備推進	学校安全体制整備のため、スクールガード・リーダーを活用した3市について支援した。	558
	学校安全総合支援事業	防災に関する指導方法等の開発・普及等のため、モデル地域1村（中学校1校、小学校1校）を指定して事業を行った。	278
計			198,350

(3) 学校給食の充実

決算額

48,942千円

学校給食の充実向上のため、各種事業を実施した。

区 分		事 業 内 容	事業費
学校給食管理指導	学校給食ぐんまの日	毎年10月24日を「学校給食ぐんまの日」と定め、地元農産物を積極的に利用した学校給食メニューの普及を図った。 「学校給食ぐんまの日」絵画コンクールを実施した（応募数1,937点）。	千円 134
	学校における食育推進	食育推進に関する研修等により、教職員の資質向上に資することができた。 （食に関する指導を実施した小中学校の割合100%・食に関する指導の全体計画を作成している小中学校の割合100%）	37
	安全衛生管理巡回指導	学校給食衛生管理の基準に基づき、給食施設の実態把握と衛生管理の改善指導を図った。 ・安全衛生管理巡回指導（60施設）	2,090
	学校給食等の放射性物質検査	学校給食等の安全性を確認するため、提供前の食材について58検体を検査した。	227
県立学校給食実施	県立学校における給食の提供及び衛生管理に必要な諸検査を実施した。 ・食材・拭取・検食検査（8校） ・給食従事者検便（84人・2回／月）	46,454	
計			48,942

(4) 学校体育の振興

決算額

86,352千円

学校体育の振興を図るため、各種事業を実施した。

区 分		事 業 内 容	事業費
学校体育指導者養成	学校体育指導協力者派遣	小学校の教員に対し、体育実技の指導及び助言を行うため、実技指導協力者を派遣した(53校・30人・373時間、器械運動実技講習会1人・3時間)。中学校における武道・ダンスの指導の充実を図るため、授業協力者を派遣した(9校・10人・198時間)。	千円 594
学校体育大会の開催・派遣	大会開催等補助	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の体育団体が主催する大会(県大会・関東大会)に対して補助を行った(18大会・89,005人参加)。	5,476
	全国大会等派遣費補助	小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の児童生徒が本県代表として関東大会・全国大会に参加する際に、派遣費の補助を行った(8大会・3,813人派遣)。	68,510
学校体育・運動部活動推進	スポーツエキスパート活用	県立高等学校の運動部活動に専門的な技能・指導力を備えた外部指導者を派遣した(36校・65人)。	1,620
	地域スポーツ人材活用実践支援	中学校の運動部活動に専門的な技能・指導力を備えた地域スポーツ人材を派遣した(18校・22人)。	723
	体育・運動部活動指導者支援	中学校・高等学校教員の運動部活動における指導力の向上を図るために研修会を開催した(1回・41人)。	12
	運動部活動トータルサポート	中学校・高等学校教員の運動部活動における指導力の向上を図るために、スポーツ医・科学の理論研究会を開催した(2回・277人)。	99
	運動部活動指導員配置促進	部活動を行う教員の業務の軽減及び専門的な指導による部活動の充実を図るために、中学校の運動部活動に部活動指導員を配置した(54人)。	9,318
計			86,352

(5) 児童生徒の体力向上対策

決算額

4,089千円

児童生徒の体力向上を図るため、各種事業を実施した。

区 分	事 業 内 容	事業費
新体力テスト統計処理	本県児童生徒の体力の実態を把握するための基礎資料となる調査結果をとりまとめた(小学生97,307人・中学生48,993人・高校生37,377人)。	千円 649

区 分	事 業 内 容	事業費
ぐんまの子どもの体力向上推進	<ul style="list-style-type: none"> ・本県児童生徒の体力向上に向け、県内全ての小中学校で自校の体力向上プランを作成し、年間を通して、体育授業の充実、運動習慣の形成等の取組を学校が中心となり、家庭・地域と連携して実施した。 ・小学校において、群馬大学・群馬県小学校体育研究会と連携し作成した体育授業モデルを活用した公開授業を実施した(1校)。 ・中学校において、群馬県中学校保健体育研究会と連携して公開授業を実施した(1校)。 ・体力テストにおいて、体力合格点がA段階の児童生徒に体力優良証を授与した(小学生12,291人・中学生9,638人・高校生5,214人)。 ・体力向上推進モデル校の実践や体力向上につながる資料等を掲載した「子どもの体力向上ガイドブック」を作成し、各学校の取組の参考になるよう、県内全ての小中学校に配布した。 	千円 2,081
オリンピック・パラリンピック教育推進	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の児童生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を向上させ、スポーツの価値への理解を深めるとともに、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等を深めるために、県内9校(小学校、中学校、高等学校、特別支援学校各1校)をオリンピック・パラリンピック教育推進校として指定し、オリンピック・パラリンピック教育を展開した。 ・教育推進校の実践事例や関係資料を掲載した事業報告書を作成し、県内全ての公立学校に配布した。 	1,359
計		4,089

(6) 榛名高原学校 決算額 2,800千円

県内の児童生徒及び教育団体の構成員を対象に、榛名山の自然を利用したカッター訓練、登山等の野外活動及び宿泊体験活動を実施した。

事 業 内 容	事 業 費
カッター訓練・登山・キャンプファイヤーなど(5,585人)	2,800 千円

(7) 全国高校総体開催 決算額 52,859千円

令和2年度全国高等学校総合体育大会「魅せる躍動 北関東総体 2020」の開催に向けて、令和元年度大会の視察や県内イベントでの各種広報活動、カウントダウンイベントの実施、総合開会式に係る準備業務等を行った。

事 業 内 容	事 業 費
実行委員会への補助、カウントダウンイベント開催、広報等	52,859 千円

8 大 学 費

(1) 公立大学法人運営 決算額 1,515,312千円

県立女子大学及び県立県民健康科学大学を運営する群馬県公立大学法人に対し、授業料等の法人の自己収入では不足する分について、運営費交付金（1,515,312千円）を交付した。

(2) 施設整備 決算額 9,775千円

平成30年度にE S C O改修工事を実施した女子大学の冷暖房設備について、E S C Oサービスによる維持管理を開始した（4,235千円）。また、女子大学及び県民健康科学大学のトイレ改修（洋式化含む）の設計及び工事を行った（5,540千円）。